

追悼特集

君 健男 君を悼む

36回 齋藤 英四郎 (経済団体連合会会長)

前新潟県知事君健男氏(第36回卒)は、去る四月二十日午前十一時四分死去された。総会にはそのお姿をみることにあつた。三月十八日県立方センター再入院、検査結果

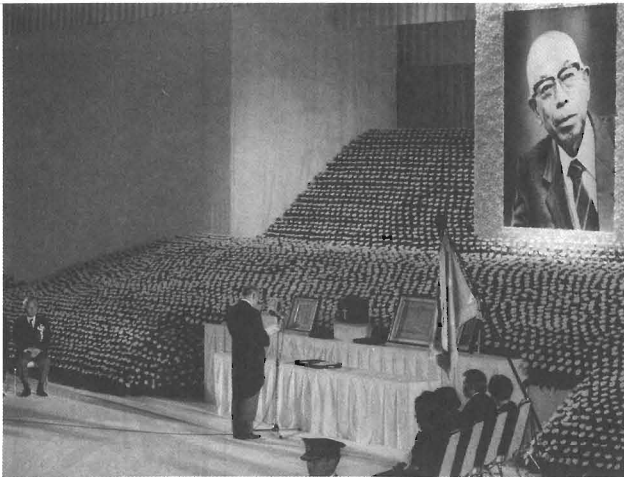
を知つて四月十三日夜辞意表明、自らのガンを明らかにした直後のことだつた。

ここに君前知事を追悼して、七月二日新潟市体育館で執行された県民葬において、青山同期の齋藤英四郎経団連会長が、友人代表として遺影に語りかけた弔辞の全文を掲載させていただきます。

君は医者に、私はサラリーマンへと、別々の道を歩んだためか、そのまま会うこともなく二十年余りの歳月が流れました。それが、昭和三十年頃ふとしたきっかけで東京で再会し、改めてお付き合いが始まったのであります。

本日ここに、前新潟県知事 故君健男殿の県民葬が執り行われますにあたり、謹んでご別れを申し述べねばならない

霊前に申し上げます。 君くん、とうとう最後のお別れを申し述べねばならない



遺影に語りかける齋藤氏

時が来てしまいました。人間一度、生を受け、滅せぬもののあるべきや、君もまた、今七十七歳の男子の生涯を終え、誠に悲しみの極みであります。君が一生愛し続けた県民、友人知己はここに祭壇を設け、幽明境を異にした君への思慕と感謝の念で深く頭をたれ、君の魂永遠に安らかなれと願(ぬか)ずいております。

想えば、君と最初に知り合ったのは、付属小学校の同級生だつた頃にさかのぼりますから、かれこれ七十年近くも前のことになりました。当時、記憶として残っているのは、君が目立たぬ、おとなしい優等生だつた、ということ位であります。それから中学、高校と同じ学校に進みましたが、

君は医者に、私はサラリーマンへと、別々の道を歩んだためか、そのまま会うこともなく二十年余りの歳月が流れました。それが、昭和三十年頃ふとしたきっかけで東京で再会し、改めてお付き合いが始まったのであります。

尔来三十有余年間、君とは実に心を許し合った、親しい友人同志でありました。私がか社の用事で新潟に来たとき

には、しばしば君のお世話で小中学校の同じクラスの連中が一堂に会し、昔話に花を咲かせたもので、君が上京の折には、一緒に盃(さかずき)を傾け、旧交を温め合つたものでした。

君は常に志を高く持し、何事も筋を通してひたむきに突き進む、剛毅な気質の持ち主でした。とりわけ、県の発展に注ぐその情熱には並々ならぬものがありました。君が毎年県への企業誘致のために大変な熱意を持って上京され、新潟出身の企業家を集め、工場の新潟進出、増強に率先奔走、数々の成果を取られる姿を拝見し、私は幾度となく深い感銘を覚えたものでした。

この会合には、いつも私は方難を排して出席、世話役の手伝いをいたしました。これら私にとつては君と会える樂事を共にいたしました。しか

し、しばしば君のお世話で小中学校の同じクラスの連中が一堂に会し、昔話に花を咲かせたもので、君が上京の折には、一緒に盃(さかずき)を傾け、旧交を温め合つたものでした。

君が二百数十万県民の大多数の支持と敬愛を一身に受け続けてこられたのも、まさに平素の真摯な取り組みと誠実な人となりが、広く認められてきたからに他なりません。

畏(かしこ)きあたりにおかれましても、生前のこのような功績を嘉(よみ)せられ、び合つたことも、つい先日の出来事のように、はつきりといえます。

そういえば、ゴルフもよくご一緒しましたね。あまり上手とはいえませんが、君の悠々たるプレーぶりには十分賞讃がありました。囲碁は私と同じ六段でしたが、驚



遺族にあいさつする齋藤氏

いつも通りの楽しい食事会でしたので、これがこの世に於ける君との最後の別れになってしまうとは、まったく夢想だにしませんでした。今思ふと、既に重い病に冒されていた君が、身体の痛みを我慢して私に付き合ってくれたに違いないと、君の熱い友情に涙を禁じ得ない思いがいたしました。

君くん、新潟県人らしい情誼の厚さ、面倒見の良さ、そして温かい心、これらすべてを兼ね備えた君との付き合いを、私はどれほど嬉しく、また誇らしく思っていたかわかりませんが、副知事から参議院議員へ。更には四回もの知事選等々、君が当選に輝く都度皆で祝杯をあげたことや、私がたまたま製鉄所建設のことで上海へ行つたとき、現地で

バツリ出会つて同じ飛行機で帰国の途中、大阪と一緒におりて邂逅(かいこう)を喜び合つたことも、つい先日の出来事のように、はつきりといえます。

さようなら、君くん。この三十年間、君が私に示してくれた心温まる友情に最後の敬礼を言わせて下さい。告別の儀にあたり、ここに謹んで友人一同を代表して、哀悼の意を表し、弔辞といたします。

「諸行無常」「会者定離」はこの世の定めと諦(あきら)め、在天の君の霊、安らかに永遠の眠りにつかれんことを願ひ、心からご冥福をお祈りいたします。

「諸行無常」「会者定離」はこの世の定めと諦(あきら)め、在天の君の霊、安らかに永遠の眠りにつかれんことを願ひ、心からご冥福をお祈りいたします。

「諸行無常」「会者定離」はこの世の定めと諦(あきら)め、在天の君の霊、安らかに永遠の眠りにつかれんことを願ひ、心からご冥福をお祈りいたします。

「諸行無常」「会者定離」はこの世の定めと諦(あきら)め、在天の君の霊、安らかに永遠の眠りにつかれんことを願ひ、心からご冥福をお祈りいたします。

「諸行無常」「会者定離」はこの世の定めと諦(あきら)め、在天の君の霊、安らかに永遠の眠りにつかれんことを願ひ、心からご冥福をお祈りいたします。

「諸行無常」「会者定離」はこの世の定めと諦(あきら)め、在天の君の霊、安らかに永遠の眠りにつかれんことを願ひ、心からご冥福をお祈りいたします。

「諸行無常」「会者定離」はこの世の定めと諦(あきら)め、在天の君の霊、安らかに永遠の眠りにつかれんことを願ひ、心からご冥福をお祈りいたします。

「諸行無常」「会者定離」はこの世の定めと諦(あきら)め、在天の君の霊、安らかに永遠の眠りにつかれんことを願ひ、心からご冥福をお祈りいたします。

「諸行無常」「会者定離」はこの世の定めと諦(あきら)め、在天の君の霊、安らかに永遠の眠りにつかれんことを願ひ、心からご冥福をお祈りいたします。

「諸行無常」「会者定離」はこの世の定めと諦(あきら)め、在天の君の霊、安らかに永遠の眠りにつかれんことを願ひ、心からご冥福をお祈りいたします。

北村治作君を悼む

34回 堀 保利



北村治作君が去る五月十四日亡くなった。ガンセンターで入院を繰返し、半年にも及んだという。私は胃腸と膝関節の治療でガンセンターへ三年も通っている。迂闊にも北村君の病気を知らなかった。

時に、新潟交通は自社の構内から豊富な天然ガスが出た。新潟交通は大いに業績を挙げた。従って北村製作所に注文が沢山きた。北村製作所も業績を伸ばした。

北村製作所の前身である。その後何年か経って、流作場の新潟交通の裏に立派な木造建築の北村製作所が出来た。彼は先を見越して、この流作場の地を購入して置いたとのことであつた。彼の先見の明を見る事ができる。新潟交通から沢山の注文を受けて業績がとみに伸びたとのことであつた。その頃は外車の大きいのに乗って市内を乗りまわしていた。凡ら注文とりや得意先廻りをしていただろう。私も街で逢って乗せて貰ったことが二、三度あつた。

彼は又社交ダンスの趣味を持っていた。極めて合理主義で無駄を嫌つた彼がダンスに興じていたとは何んとも不思議であつた。当時市内にはイタリア軒と古町四に孔雀と二軒のダンスホールがあつた。彼は主にイタリア軒を使つていた。長身の彼が背筋をツンと伸ばして悠々と踊っている姿を今でも思い出す。終戦後他の交通会社が、材料や、燃料が無くて困つてい

業魂が中野社長に通じたのであろう。この本は彼の誠実さと愛情によって貰われている。従業員やその家族に対しても深い愛情を注いだ。一時香しくなかつた労使関係も、その後良好に推移した。彼は青山同窓会やその他の会合にもよく出席した。同期の友に逢えるのをこの上なく楽しみにしていた。又同期の不幸に対しては見舞うことを忘れなかつた。同期の神田坤六君が群馬県知事になるや、いち早くお祝いに彼を訪れている。

彼が残した北村製作所は二世北村社長によって順調に発展している。近く出来島の地から工場団地に本社を移すという話もある。彼もあの世で喜んでることと思う。

板金の仕事で傷めた聴力のためか、些事には全く無頓着で泰然としている姿は大人の風格があつた。その北村君は今この世に居ない。淋しい限りだ。ご冥福を祈る。合掌。

彼は三年程前に「追憶」という本を書いて私のところへも贈つてくれた。彼の生い立ちから今日までの謂わば自伝史である。この本を見ると彼が事業に対して注いだ強い信念と情熱を感じる。彼が頑固者で有名な交通の中野四郎太社長にねばつて仕事を貰う交渉のやりとりはこの本の圧巻である。彼の誠実な人柄と企

五月十五日の新聞の死亡欄で彼の死亡を知った。北村君と私は新中の同期生である。彼は卒業後数年関東で板金の技術を学んだ。中学を卒業して職人の世界に入ることが並大抵のことではなかつた。よく決心したものである。昭和の十年頃と思うが新潟へ帰つた彼は西堀前通り四番町に民家を改造し、一階を土間にしてささやかな板金の仕事を始めた。彼が一人で熱心に仕事をしているのをよく見掛けた。これがそもそも

67期30周年記念 同期会

湯田上

六月十日(土)湯田上温泉若竹旅館を会場に卒業満三十周年記念同期会が開催された。開会に先立って湯田上カントリークラブでは同日ゴルフ大会が行われた。全国各地からこの日を楽しみに集まつた者四十六名。来賓は宮地校長と担任の川島、小田の両先生。総勢四十九名。丁度働き盛りで



全国に散っている仲間達は社用で海外へ出たりと、参加出来ない者も多く律儀な者が送つて来た近況報告のコピーを回し読みし、お互い懐旧一入であつた。

開会に先立ち、この会には本人の都合がつかず、ご夫人の参加となつた、参議院補選出馬の君英夫君の心意気に感じて、皆でがんばつて応援しようとする拍手。結果は残念な事であつたがこれも時の流れ、同期友情の再確認となつたことである。さて開会、幹事の経過報告、来賓スピーチ、そして全参加者の近況報告と自己紹介。それぞれの年輪をどこか面影の残る語り口で次々と。

に。参加者提出と不参加者から送られてきた記念寄附金を合わせて、目録として宮地校長に贈呈、同級のアマチュア画伯永井健司君よりの絵も寄贈することとなった。これは後日持参。

遠来参加の人には、新潟在住者の心づくしで「こしひかり」の箱づめと、燕で洋食器業を営む加藤清君より寄贈の洋食器のプレゼントが配られた。大広間での宴会が終了後新潟へ帰る予定の日帰り参加組も、名残りがつきず、最終列車に変更し、旅館の好意で用意して貰つた別室で、二次会・三次会と語り合った。館内のバブで、自慢のものを披露する人、踊る人、それぞれに旧交を暖め合い、今後も又五年毎にお互い元気な顔で集まろうと誓ひ合った。

これからの作業として、全国に散っている仲間の名簿の空白を埋める作業が残っているが、これも市内在住各クラス幹事が協力し合う事となつた。それにしても朝八時から翌朝九時すぎまで、ゴルフをして、飲んで、語り、又飲んで、踊つて、長くて、楽しく、そして別れ難い名残りつきな24時間であつた。

お礼の(ごあいさつ) この度同期君英夫君の参議院補選立候補にあたり、鈴木会長はじめ同窓各位の

ご好意で、青山同窓会有志による「はげます会」を開いていただいたところ、多数ご参りいただきました事に、深く感謝申し上げます。結果は

67期有志一同 (67期幹事 石田瑞穂)

ここに掲げた古い写真は一年、昭和六十二年の十一月十三日付朝日新聞に載せられていたもので、竜馬が二回目に福井藩を訪ねた慶応三年十月に撮られたものである。場所は福井の宿屋「煙草屋」の裏手で、菊の鉢植えが並べられ、本人は厚手の足袋を履いている。

この時の福井滞在は十月二十八日から十一月三日まで、五日には京都に帰り、十一月十五日に土佐藩出入りの商人近江屋の二階座敷で同席中の同じく土佐藩中岡慎太郎と共に斬殺されている。竜馬三十三歳、中岡は三十歳、奇しくも天保六年十一月十五日生まれの竜馬にはこの日は誕生日である。

この役職には何等の望みも持たず「新しい日本国が出来上がれば俺の仕事は終りだ」と割り切っている。さて十一月十五日の夜九時頃、来訪してきた土佐藩陸援隊長中岡慎太郎と会談中斬り込まれた。初大刀を深々と額に受けた竜馬は二の大刀を背に、次の大刀を鞘のまま受けたが刺客の豪刀はその受大刀を鞘ごと削り、再び頭部に深

く一撃を受け殆んど即死であった。現場にあった刀の鞘と足駄とから暫くは新選組の仕業と思われていたが反つてそうしした子供じみたやり方から反論が多く、現在では京都見回り組の今井信郎ということになってい

る。竜馬等を斬つた者は誰か？ 現場にあった刀の鞘と足駄とから暫くは新選組の仕業と思われていたが反つてそうしした子供じみたやり方から反論が多く、現在では京都見回り組の今井信郎ということになってい

る。竜馬等は斬つた者は誰か？ 現場にあった刀の鞘と足駄とから暫くは新選組の仕業と思われていたが反つてそうしした子供じみたやり方から反論が多く、現在では京都見回り組の今井信郎ということになってい

る。竜馬等は斬つた者は誰か？ 現場にあった刀の鞘と足駄とから暫くは新選組の仕業と思われていたが反つてそうしした子供じみたやり方から反論が多く、現在では京都見回り組の今井信郎ということになってい



坂本竜馬を斬らせた者は誰か
健山福 39回

からすれば正当の行為である。竜馬は千葉道場の免許で北辰一刀流の使い手、幕臣今井は神原健吉の門下で当時二十七歳、真心影流免許の劍客である。

今井説は世人が勝手にこの二人を組み合わせたものではな

い。明治三年に土佐藩の佐々木高行が今井の供述書を取っている。それによると斬込隊は見回り組の佐々木唯三郎を長とす

憎み合い不信の念を持っていた薩長双方に呼び掛けて同盟させ、十五代將軍慶喜に大政奉還の決断を下させたのは一介の土佐藩郷土坂本竜馬の不拔の念力とその縦横の行動力である。

また、後の「五カ条の御誓文」の原案「船中八策」も彼の方寸から生み出されたもので、実に明治維新の舞台裏の組立の大功労者である。而もやがて生まれ出てくる新政府

の七名であるが、今井は近江屋の家人を鎮めるための見張り役であり、二階に上がって斬り込んだのは「渡辺吉太郎、記録には残されていないという

高橋安次郎、桂準之助」の三名だとして述べている。また供述書による暗殺の理由は前年慶応二年一月二十三日の寺田屋事件で竜馬が奉行所の同心二名を短銃で殺傷して逃亡した罪によるものと述べている。

「大政奉還」の原案は竜馬から上役の後藤象二郎を経て藩主山内容堂に提出、容堂より老中職を経て將軍慶喜に廻され、將軍の即断で十月十三日に京都二条城で在京四十藩の代表に將軍自ら発表している。後藤はこの建築の功により百五十石から千五百石の加増を土佐藩主より受けている。大ポーナスである。

作家三好徹氏はこのコースから竜馬の所在をそれとなく幕府方に知らせたのは象二郎ではないかとの説である。後藤は維新後、新政府の参議となり土佐藩の代表者となったが、坂本竜馬のことについて一言もふれたことはなかったという。

奇策縦横、文字通り竜馬の三十三歳の一生は花火のように尾を引きながら大空の彼方へ飛び去った。底冷えする京は河原町蛸薬師角の近江屋の天井の低い二階の奥座敷で、維新の夜明けを見ずに何者かに斬殺されて終わる。まことに惜しむべし。

また、後の「五カ条の御誓文」の原案「船中八策」も彼の方寸から生み出されたもので、実に明治維新の舞台裏の組立の大功労者である。而もやがて生まれ出てくる新政府

の七名であるが、今井は近江屋の家人を鎮めるための見張り役であり、二階に上がって斬り込んだのは「渡辺吉太郎、記録には残されていないという

高橋安次郎、桂準之助」の三名だとして述べている。また供述書による暗殺の理由は前年慶応二年一月二十三日の寺田屋事件で竜馬が奉行所の同心二名を短銃で殺傷して逃亡した罪によるものと述べている。

「大政奉還」の原案は竜馬から上役の後藤象二郎を経て藩主山内容堂に提出、容堂より老中職を経て將軍慶喜に廻され、將軍の即断で十月十三日に京都二条城で在京四十藩の代表に將軍自ら発表している。後藤はこの建築の功により百五十石から千五百石の加増を土佐藩主より受けている。大ポーナスである。

作家三好徹氏はこのコースから竜馬の所在をそれとなく幕府方に知らせたのは象二郎ではないかとの説である。後藤は維新後、新政府の参議となり土佐藩の代表者となったが、坂本竜馬のことについて一言もふれたことはなかったという。

奇策縦横、文字通り竜馬の三十三歳の一生は花火のように尾を引きながら大空の彼方へ飛び去った。底冷えする京は河原町蛸薬師角の近江屋の天井の低い二階の奥座敷で、維新の夜明けを見ずに何者かに斬殺されて終わる。まことに惜しむべし。

そこでこれから以下は私の希望論となる。もし竜馬が倒れず、翌慶応四年(一八六八年)一年間存命であったなら、あの悲惨な成辰の役は防ぎ得たのではあるまいか。東北諸藩への西軍の進攻は



気の合う
在京三五会

気の合う在京三十五期生の集い「新中三五会」は、幹事の尾崎三夫君が家の改築の為半年ほど長野県に寄寓するの

ので、その「壮行」を兼ねた春の例会を、去る3月24日に小石川後楽園で開きました。参加者はご夫人を含む12名で、名園の枝垂れ桜は満開に近く楽しい昼の宴に歓談を尽くし、青山応援歌の合唱で幕を閉じました。写真は涵徳亭での記念撮影。出席者は入沢健三、尾崎三夫と同夫人、籠島秀雄、近藤百之、桜井貞一、中村信一と同夫人、丸山求蔵、山名栄一と同夫人、渡辺秋策の皆さんでした。(山名記)

(平成元年六月九日記)

一度の帰新願望

40回 小沢 太郎

私が「新潟で死にたい」と思ったことは、生涯二度あって死にたいと願ひ、星に祈りつた。一度目は終戦を鮮満國境の街「南陽」で迎えた時であり、二度目は東京の三鷹市にいた時である。

終戦の時、私は「南陽」の師団司令部参謀部に軍曹として籍を置いていたが、ソ連の進駐と同時に、全員が武装解除となった。風説がすぐに流れた。日本軍は全員捕虜となつて、近くシベリアで強制労働を課せられ、当然日本には永久に還されないだろう。という事であった。

私はその時点で脱走を決意する。高級参謀の平田中佐に挨拶をし、八月十九日の午前中にそれを敢行した。ソ連領では死にたくない、という部下が二名私と行を共にし、ソ連警備の包囲網を奇跡的に突破して、朝鮮の山中に逃げ込んだ。昼間は深い樹林にひそみ、夜間のみ歩くのである。地図も磁石もない。北の星を背にして、ひたすら南下した。その時老母と妻子が新潟にい

たのである。新潟に帰りついで死にたいと願ひ、星に祈りこめたのである。一度目の願望である。二度目の願望は私が七十歳を越してからである。新潟を越してから四十年近く経つた。はなれて既に四十年近く経つた。かつて私がいた三菱系の会社の部下であった現役の人達が、当時三鷹市でのんびりしていた私を「古稀祝」と称して新潟に引っぱり出してくれたのである。参加者は東京・大阪合わせて十四名であった。大新潟カンツリーの三条コースでゴルフコンペを、夜は観音寺温泉の「上州園」で祝賀会をと、そして翌日は弥彦神社参拝送組入れた、盛り沢山なスケジュールの中で私は今迄忘れていた新潟の匂い、良さを再認識させられたのである。帰りの新幹線の中で、暮れなづむ越後平野を見ながら、私は両手・足を思い切り伸ばして死ぬる所に帰りたい。そう思い極めたのであった。二度目の願望であった。

二つの願望を果して新潟に移り住んで私は倅であったと思ふ。親戚もさること乍ら、四十回卒業の同期生が元気で時々逢えることが嬉しい。同期会は小島松一君、片桐靖門君等が中心となつて、企画・連絡・会計等を献身的に処理し、会を纏めている。尚四十年には総会(六月六日田中ホテルでの実施時は三十名が参加、井上三郎君の顔が見られず残念だったが)の他に「椿の会」と称して、奇数月の第三金曜日に、ぶらり、ぶらりと古町を歩くヒマ人が必ず集まる会がある。小三の二階、「椿」という大衆割烹店で、正午から二時位までである。会費は昼定食で、ビール一本に酒場本がついて二〇〇〇円、三度目の願望として、甲子園が浮び上つて来るかも知れない。去年の五月から始めて、当時の参加者が五

五六名であったのが最近はその五名前後が定着している。夫が近況を語り、思い出を語つて賑かである。あとで送り合つて来る懇談風景の snapshots 写真が好評を博している。新潟に来て楽しい事がもう一つある。県高の野球が見れる事であった。今年入った七試合位見ているが、母校のグラウンドにもよく行く。昨年からは監督、コーチの熱心な指導で見違える程実力をつけている。北信越大会ではベスト4に残つたし、ハワイ選抜軍との対戦では、新潟県選抜チームのメンバーの中で県高の投手がエースナンバーをつけて登板した。

後輩に応援歌を

46回 富所 強哉

先日の東京青山同窓会恒例の新人歓迎会で、最後に歌う校歌の前の応援歌のことで、新人は「青山」しか知らないのでは何か他の応援歌をとの注文があり、大先輩による凱旋歌の前に在校中最もポピュラ

ーだった「霞たなびく」の音頭を取らせてもらった。因みに後輩である甥の結婚披露宴で同窓の一同で「青山」を楽しく歌つたことがあったが、昔だったら凱旋歌を歌つたであらう。この「青山」と称する歌は当時はそのような呼称もなかったし、特別に愛された歌でもなかったと思う。「青山」しか知らないというのは先輩に歌わせて歓迎の意を表させるための口実であつてそれほどひどくもあるまいが、知っている歌が少ないのは事実のようである。吾々の世代では忘れたような歌でも誰かが歌い出せば一緒にいつて歌える者が大部分だと思ふ。私自身について言えば新中創立六十周年記念の青陵回顧録(昭和二十七年刊)にある十二曲と他に一曲は大体歌えるつもりである。尤もこの頃では歌っている内に一番と二番がゴツチャになっているのに自分で気がつくことがあつたりするようになったが、中学卒業後進んだ学校関係の同じ専門の集りでは共通の話題が多いが、青山のような同窓会では一十年次が離れた人とは仲話の種がなく、クラス会は面白いが同窓会はつまらないというふうなものもなる。

入学して間もない頃、汽車の中で十歳程も年上かと思われの人から、某々先生は元気かと声を懸けられ、先輩としてのお話を承まつたことがあつた。このように比較的一緒に話せるのは恩師のことだが、それも卒業が二十年も違つての暗いイメージを持つようなこともあるまいから、少ないそして強い紐帯となり得るもの二つが校歌と応援歌であるというのが、十余年前に東京青山同窓会に出席するようになってからの私の考へである。

来年の再会を楽しみに、スコーアよりも親睦に軍配のあがつた一日でした。(56回 中由正男)

第一回 東京・新潟 56期会 合同ゴルフコンペ開催

三月七日埼玉県児玉町の「こだまゴルフクラブ」に於て、東京組十六名、新潟組七名、計二十三名で合同ゴルフコンペを開催。折悪しく、低温と雨天の中で(自己ベストスコアに遠く及ばない云い訳の材料)熱戦を行った。東京と新潟の距離で、例年の同期会でもなかなか会えない仲間も多かったので、懐久の想いしばしばで、和気あいあいの裡に終了。



活躍する女子同窓生

新潟高校に始めて女子学生が入学したのは昭和二十五年で第六十一回生が最初でした。以来、年月の流れの中でたくさん女子同窓生が生まれました。近年では、入学生の三分の一近くを女生徒が占めた年もありました。以下は編集部で寄稿をお願いした近況報告特集です。総会にも、誘い合わせてたくさんご出席下さい。

一日の仕事

67回 堀川 楊
(信楽園病院・神経内科)

今朝、ジョセフ病のSさん
の脳を、病理の先生に見ても
すままでに発展して来たが、
らった。小脳・脳幹から脊髄
前根と広範な変性に陥って、
立つことも坐ることも出来な
くなっていったSさんがT市の
家で急死された晩、解剖をお
願いで御遺体を病院へ運ん
だ車の中で、「此の頃疲れると
足元がふらついて、次は俺の
番かなと思うと、おふくろの
病氣、きちんと見ておかねば
と思ひましてね」と云われた
息子さんのが、しきりに
思ひ出される。

病氣は間違いないと確認さ
れたが、原因不明のこの病氣
の治療が出来る日が来るだろ
うか。次の患者の為に役立て
たいというSさんの息子さん
の氣持に報いる日があるのだ
ろうか。神経学の分野は、分
途方にくれる。三階のO氏は



今日元氣だ。全く口もきか
ず食事もとれず、一人では起
き上ることも出来なかったの
に、此の頃は少しずつ良くな
り、今朝はベッドの上で雑誌
を読んでる。退院したら、
こんな猫を飼いたいと本を見
せる。余り嬉しくて、家で飼
っている拾い猫のひげ丸の話
をする。このまま熱も出ずに
経過すれば退院出来そうだ。
夕方飛び込んで来た片麻痺
のHさんの高熱は何だろう。
肺炎も膀胱炎もない。やっぱ
り風邪かな？ 風が吹いてもサ
ワワ心配して鳴るから藪医
者っていうのです。藪医者に
こそなりなさいと教えられた
医学部の卒業式の日のこと
ちらっと頭をかすめる。
今日も一日の仕事が終る。
どんなに神経を磨滅しても、
患者のマイナスの状態をゼロ
に戻せればもうけもので、決
してプラスに転換は出来ない。
医者の仕事は日陰産業だとつ
くづく思う。しかし日陰産業
だからこそ、もともと失うも
のとて何もない女の眼や、屈
折した想いが、役に立つ余地
もあるのかも知れない。

セ・ラ・ヴィ

75回 小島 富美子
(旧姓 高出)

「セ、ラ、ヴィ」：フランス
語で「これが人生」。少し諦め
と自嘲を込めて言う一節です。
俗に言う人生の折り返し点付
近に到達すると、青春期には
一つ想いの届かなかった深い
意味合いを感じられるように
なった気がしています。現在、
私は二つの職業を持っていま
す。一つは日本舞踊の師匠、
もう一つはフードスタイリス
ト。こう書く事自体、実に人
生は不思議だと私自身が考え
させられています。開業医の
長女として生まれた私は、何
の迷いもなくその分野の仕事
を選ぶつもりで勉学し、結局
薬大に進みました。しかし、
心に満たされない何かを感じ
新大の基礎医学で、神経生理
の研究をしておりました。朝
から晩まで動物実験や文献整
理の毎日でした。医師と結婚
し、出産を経た時点で急激な
変化に巻きこまれました。一
人で二人の子供を育てて生き
ていかなければならなくなっ
た時、私の人生の潤いとして
の部分が生活の糧へと変った
のです。日舞は伝統の世界、

到達点のない芸の道です。人
に教えるというよりも、自身
の精進を根底におき、忙し
ざる現代だからこそ、何とか
古来の型を残してゆきたい、
様々な舞に私の人生をゆっく
り重ねてゆきたいなどと願っ
ています。又、耳なれないフ
ードスタイリスト」という職
業はマスコミメディアの先端
をゆく物です。TVで三年程
たのが縁で、今に至っている
のですが料理家とテーブルコ
ーディネーターを併せた様な
仕事です。フリーになって三
年半程たちますが、本当に多
くの方々に助けられて、新潟
での基礎的な物ができてきた
ような気がしています。十代
の頃から、料理や器は好きで
した。少しずつ集めていた器
達に役に立って来ています。
食事という人間にとっての大
切な行為を、家族間、友人間
の好きふれあいの場とするた
めのささやかな手伝いをした
いと思っています。どちらの
仕事も、ソフトと言うよりヒ
ューマンウェアに属する領分

女性ばかりの会社

82回 小林しおり
(株ウイット 取締役)

同窓生の先輩、後輩の皆々
様、お元氣でご活躍のことと
存じます。
私、今年の三月に、志を同
じくする者とともに、社員教
育の為にコンサルティング会
社、WITを設立致しまし
た。おそらく首都圏以外では
初めての女性ばかりのコンサ

ルティング会社と言われている
ります。仕事の内容は、新入
社員セミナー、女子社員研修
(秘書、受付)、話し方セミナ
ー、人間関係セミナー、販売
士養成研修、セールスマン研
修、販売員接客研修、経営者
管理職セミナーなどです。
現在、創業わずか四ヶ月に
なっただけですが、お陰を
もちまして、まずは順調な滑
り出しができましたことを有
難く思うこの頃です。
仕事で、市内のいろいろな
(次頁五段目へつづく)



人生にもこの先どんな流れが
用意されているか知る由もあ
りません。心静かに、今をひ
たすら生きてみたいと思っ
ている次第です。



60回卒MUNZOKU会

コンパまたコンパ

新春一月十日麴町「きらら」芸妓の「だいろや」の唄で大に在京者の新年会が、同期宴会の幕を開けた。

の前建設省事務次官高橋進君 渡辺、齋川、井上、茅原、を交え、三十余名で盛大に開大橋の諸先生に五十名の初老催された。その折、久し振りに新潟の温泉で設営しとの声があり、四月十五日岩室温泉高志の宿「高島屋」で、地元

に引き揚げる面々の中に、先生方もおられたという大盛會であった。
翌朝も朝酒で目を覚まし、一同弥彦神社に無病息災を祈願して帰途についた。

七月六日、MUNZOKU会の例会日に合わせ、ブラジル・サンパウロより駒形秀雄君が愛妻シルレーさんを同行、新大歯学部にはブラジル県人会留學生として研修中の令嬢エリカさんを激励の為来新した。



写真右より 夫人、駒形氏、令嬢

急遽招集をかけた「錦城閣」に三十名の悪友が集まり、熱烈歓迎をした。土産のインデオの秘薬にかじり付き、青春と。

時代に若返り、校歌・応援歌を歌い、シルレーさんの唄まで飛び出す国際交歓の場であった。ブラジルへ旅行される方はずいご連絡下さいとのこ

- 男子個人1位 新井信洋
- ◎庭球
- 男子W2位 岩戸・三沢
- ◎フェンシング
- 男子個人フルール
- 1位 保科恒一 (北信越大会準決勝プール進出)
- 2位 大黒能寛
- 6位 横山 豊
- 女子個人フルール
- 4位 桑原恵子
- 男子個人サーブル
- 2位 大黒能寛
- 6位 平沢英一
- 男子個人エペ3位 坂井英章
- 男子団体 3位
- ◎ボート
- 男子舵手付フォア 3位
- 男子ナックルフォア 1位
- 男子シングルスカル 1位
- 高野昌則
- 女子団体1位
- (全国大会出場)

後輩の活躍

志田君、北信越大会

走幅跳で優勝

県総合体育大会(上位入賞)

400リレー女子 5位

◎陸上

走幅跳1位 志田哲也

(北信越大会1位)

800M 2位 古侯勇人

千500M 3位 古侯勇人

三段跳3位 吉津由貴

(北信越大会2位)

110H 3位 土田克則

3千M 4位 新飯田康子

◎水泳

200バタフライ5位 葦沢敏昌

◎バドミントン

男子団体 3位

(北信越大会出場)

◎ラグビー

(北信越大会Aブロック3位)

◎剣道

男子団体 3位

◎柔道

軽中量級(ベスト8位)

伊藤肇 (北信越大会出場)

(北信越大会3位)

ミスプリントのおわび

前回発行第48号青山同窓会会報の3面「畏友永井行蔵君を悼む」の作者、山田又一氏のお名前を山田文一氏と、又7面「教師群像(そのI)」の作者大井顯三氏を大井顯氏とミスプリントし、大変失礼いたしました。深くおわび致します。(編集部)

(前頁七段目よりつづく) 優しさと同時に、人の攻撃性を鈍らせるものがあります。それを埋没してしまうことは簡単なだけに、その優しさをもって迫られると、逆に自らの甘さをつきつけられたように感じてしまうのでしょうか。熱に浮かされたランナーズハイの状態で一気に駆けぬけたという衝動から会社に携わった私にとって、あてどなく母校を訪れることなど「まだ早いぜ」と言い渡されたように、そんな想いでした。立去る時、ふと校舎に向かって一礼をしてみました。

新潟大学の同窓会の事ではすこしお手伝いさせていたでいるので、これからは新潟高校の同窓会にも出席させていただきます。この原稿を担当の方からい

ただ、ほんの数日前、私にとつては象徴とも思える出来事がありました。卒業以来十五年、新潟に居住しているのに、その間母校を訪れたのは厳然とした目的があつてという場合ばかり。ただ母校の空気に触れる為だけに、というのは、この時が初めてでした。傷心を抱いてというのではなく、過去をふり返りたくてというのではなく、ふと今の自分の過去に目を落としたくてというのが一番近かったような気がします。そして迎えてくれた母校は、限りなく暖かく、それ故に残酷でもありません。いつでも帰っておいで」という言葉の陰には、

教師群像 (そのII)

41回 大井 顯三

英語の教師で背がべらぼうに高く、髪の毛が天然パーマの為、いくら手入れをしても外見が百舌の巢のように見える為、「モズの巢」と言われたり、略して「モズ」と言われた藤沢先生、晩年はどこかの学校の校長をやられたとか。

同じ英語の教師でも、痔疾がある為とか、顔色が悪く、また、何日も休講し、そのおくれた分を一回の講義で取りかえず、その時の進度が非常に早いので、「エンジン」と渾名された田中先生、頭の良し人だと先輩の辯であった。

国漢の先生で沢田可雄(名前は何と読むのか分らない)先生、「だちうま」「だちんうま」時には「だち」と呼ばれたが、顔が長く額が角ばって馬の表現は当を得たものであった。剣道はかなりの腕前のよう、生徒四・五年生の有段者と教師有志との対抗試合があった時「だちんうま」は生徒側何人かを抜いたようであった。その決め手は殆んど「お胴」であった。

新中の名のあるところ「ゴリラ」又は「ゴリ」と称され

で「でくの棒」と隘口をささやく生徒がいた。それは、先ず「いっせん」が鉄棒で模範演技の振り上り、逆か上り、車輪等をやってみせるが、中川先生の「巨漢」は一度もやってみせてくれないからだと言っ者もいた。

当時、新潟師範、新潟商業、新潟中学三校の各種競技の対抗試合が行われていた。そして軟式テニスとバスケットと陸上競技は三者の競合で実力校になった為、部長である「きよかん」の指導よろしきを得た為と評価され、巨漢先生の悪口は自然消滅していった。

今でも、当時の三校対抗リーグ定期戦で互いに切磋琢磨して実力をつけた話が語られることがある。

もう一人、体操新任教師で「せいばん」という土屋先生がいた。色が黒く筋骨たくましく、歯が出た、その歯で台湾の生番人を見る如しというところから、忽ち「せいばん」が定着してしまった。此の「せいばん」は泳が上手で、各種の競泳会に出ては好成绩を挙げている。どこか下の家の婿さんだという噂がしきり流れた。

「スケート」と呼ばれた数学の小島先生は黒板に向ったままで、つまり生徒に背を向けて

いながら、自分の眼鏡の裏をよく見とがめては大喝一声をくらわすことが上手であった。教え方は上手で評判のよいお爺さんと云ったところである。数学ではもう一人「やせ馬」と渾名された藤田先生がいた。検定出身と言われているが、真偽の程は分らない。瘦身の風貌は正しく「やせうま」であり、疑う余地のないところ、教育熱心を絵にかいたようなタイプで、此の人のお蔭で難解と思われた代数や幾何が得意な課目になった生徒も多かったと聞いている。中学卒業後二十年近く経って、路上で偶然出会った時、此の先生が私のことを覚えておられたのにびっくりしたことがある。

化学の先生で「せんきん」という渾名の黒田氏が居た。彼の歩きぶりが、両足を外側に向けてゆくので、丁度、きんただが大きすぎたついついあんな歩き方になるだろうと、か言われ、確かに「せんきん」のニックネームはピッタリである。

「赤チヨン」が石川先生で「青アタ」が阿部先生で、とまで、此の後の「青アタ」のことを少し。当時文学青年で長塚節にかなり傾倒していたようだった。一寸説明

しておかなければならぬところがある。同級生の関根克巳君が旺文社の作文の部で全国一になった時「青アタ」がひどく感激して、彼には非文筆の才を伸ばすよう、また、和歌、俳句にも興味を持つよう関根君にとても肩を入れている。後年関根君はそれに近いようなことを私に漏らしたことがある。その為ばかりではないだろうが、彼は高等学校は文科へ進んでいったとも思われる。此の「青アタ」は昭和四十年頃に、新年御題の詠進歌に入選されて新聞紙上を賑わしたのを覚えている。恐らく、退職後は和歌一筋に専念された結果であろう。萬年青年を通された「青アタ」の面目躍如たるものありといいたい。

最後に、特筆大書に値する名前を挙げておこう。「シャモ」。「軍鶏」である。齋藤栄治陸軍大尉で、軍事教練の教官である。声が大きく、その発声時の姿勢が、あたかも、軍鶏がときを作る様子そっくりなところ、全くよく似ている。特に両手先までふるわせて声を張り上げる。正に「シャモ」である。新中には長く在し、その叱声は誰しも一度は経験していることだろう。

★ 新潟県知事、君健男氏の追悼として、県民葬での同期齋藤英四郎氏の弔辞を転載させていただきました。永年のよき友振りがうかがわれました。

★ 同期生の心のこもった追悼は、北村治作氏に対しての堀保利氏の一文にもうかがえます。

★ 特集として、女子同窓生にスポットをあててみました。編集部からの依頼で、お忙しい中を寄稿して下さいました。女子同窓生もそれぞれいろいろ活躍と聞いています。今回もこんなスポットをと企画しています。

★ 母校、同窓会への共通の思い出として教師群像の中に描かれているアタ名を通した教師の面影、大井氏の労作長文ですが、いかがですか。

★ 今後も会報を通じて同窓のきずな作りをはかりたいと思います。こんな人、あんな人、と同窓活躍のニュースを編集部にお寄せ下さる様お願ひ申し上げます。

★ 福山氏の労作「坂本龍馬」、

青山同窓会 鈴木会長杯 ゴルフコンペ

優勝は68回佐藤豊一郎氏、でした。今回から、各期対抗戦を行い、上位三人のネットスコアの合計で争った結果、団体優勝は71回、準優勝は64回でした。

次回秋の大会は九月二十一日(木)紫雲ゴルフ場で八時スタートで行います。参加希望者は同窓会事務局262-131又はゴルフ幹事石田283-2151(オ)サンライズゴルフコースで行われました。

優勝は63回滝沢正元氏、準

編集後記

★ 小沢氏の「雑感」、そして富所氏の「応援歌」の事など、長文の寄稿が重なりました。先輩から後輩へ伝えるものとして応援歌という提言、これは校庭に校歌の歌碑を建立した53回生の心にも通ずるようです。

★ 母校、同窓会への共通の思い出として教師群像の中に描かれているアタ名を通した教師の面影、大井氏の労作長文ですが、いかがですか。

★ 今後も会報を通じて同窓のきずな作りをはかりたいと思います。こんな人、あんな人、と同窓活躍のニュースを編集部にお寄せ下さる様お願ひ申し上げます。

★ 福山氏の労作「坂本龍馬」、

(石)

画人笠原軌と

その父漁村(五)

60回 小林 智明

宿直の夜

放課後の学生達が、春風吹き渡るグラウンドに出て来て野球を始める。そんな光景を漁村先生は詠んで。また「戯れに某生に示す」という詩には、

春風吹暖校窓中 春風吹き暖かなり校窓の中
満室融々和気通 満室融々として和気通ず
寄語書生莫傷腦 語を寄す書生 脳を傷むる莫れ
学成身死有何功 学成り身死して何の功有らんや

とあり、諸君、学業が成つても、勉強のし過ぎで健康を損って死んでしまつては元も子もないよ、とごやかに諭している愉快な詩である。また東京へ赴く或る学生にはこんな詩を寄せている。

堅忍不撓寒与飢 堅忍不撓 寒と飢と
京城桂玉計頻違 京城の桂玉 計頻りに違ふ
一朝邇得黄河水 一朝 邇り得たり黄河の水
莫向龍門点額歸 龍門に向ひ額を点じて帰ると莫れ

都はなかなか思ふようにはゆかないかも知れないが、しかし額を点じて(試験に落第すること)帰るなよ、必ず龍門を登つて龍になるんだよ、と励ましている。「講堂」という詩には、

堂俯平蕪遠市閭 堂は平蕪に俯して 市閭遠く
扉收松翠暑氣虚 扉は松翠を取めて 暑氣虚し
毅然自有強人意 毅然として 自ら強人の意有り
掲壁東郷大將書 壁に掲ぐ 東郷大將の書

と、日露戦争日本海々戦大捷後の、時代を映した講堂の様子をうかがうこともできる。東郷平八郎は明治三十九年七月に来校した。また時には同僚達と五頭山麓の温泉に遊び、「村杉坐湯中雜咏」という

一連の詩を何首か作り、時に新潟中学生五六名の来浴者有り、とて風間儀太郎先生と贈答した次のような詩もある。

浴客爲群知歳豊 浴客群をなして歳の豊かなるを知る
斜陽林外稻花風 斜陽 林外 稻花の風
此遊不讓舞雲興 此の遊 舞雲の興に譲らず
五六相逢皆冠童 五六相逢 皆冠童

夏休みのことであろう、温泉で五六人の生徒らに会い、論語、先進の「莫春には春服既になり、冠者五六人、童子六七人、沂に浴し、舞雩に風し詠じて帰らん」の故事を思い出したところか、自然を樂しむ行樂のことである。

明治四十一年十一月八日の夜は、雪おろしの雷鳴がとどろく寒い夜であった。その夜、たまたま寄宿舎の宿直に当つた漁村は「戊申十一月八日夜直有作」という次の詩を詠んでいる。

爐中熾炭忽成灰 炉中の熾炭は忽ち灰と成る
如此寒宵夢易回 此の如き寒宵は夢回易し
知是初冬新雪下 知る是れ 初冬 新雪の下
迅雷一撃震窓來 迅雷一撃 窓を震はして來たる

おこした炭がすぐ灰になるような寒い夜を、一人宿直をしながら「夢回易し」と詠んだ五十五歳の漁村の脳裏に去来した思いは何であったか。故郷佐渡の山河か、はたまた東都に遊学中の息子達のことか、……その頃、軌の兄軌は、四高を経て帝大文科

卒え、文学士となり渋沢家編纂所に入った。……しかしこんな詩を作つてただ感傷にひたつていた訳ではない。当時の宿直日誌には次のような記事が達筆で記されていて、漁村のまじめな勤務ぶりがしのばれる。また寄宿舎の先輩達の姿がリアルに伝わってくるので、ここに転載をお願いしてみよう。

十一月八日 月曜 陰 当直 渡邊 斐

- 一、廣野生他九名帰舎。
- 一、本多操(十七回、小須戸町) 木村松弥(十八回、中ノ山) 上村繁雄 羽田智弘(十七回、曾川) 病気の爲早寝。
- 一、預り置たる金員、上村繁雄に渡す。
- 一、鈴木辰二(宿元保証人不在につき宿泊を許す。但、三堀舎監の伝言を述べ。然に本人は時習の際、尚雑誌を見居りたれば叱り付けたり。
- 一、舎生中旅行の爲寒冒に罹りたる者多く見受けたり。

一、圓山彦五郎(十六回、京ヶ瀬村) 保証人宅より



三堀兵五郎先生 (安政三年生、長岡市出身) 数学、尊称ダルマ



内田太先生 (慶応元年生、福井県出身) 元体操、尊称トラ

り電話を以つて遅刻する旨届出あり。然ども十時を過ぎても帰舎せず。右記し畢りて証明書携帯帰舎す。時に十時二十五分也。

一、佐々木精一(二十一回、亀田) 帰舎九日朝也。(一) (内筆者注)

寄宿舎生の外出は仲々厳しく、日曜、休日以外外出は舎監の許可を必要とした。建物は東舎と西舎があった。この頃は南舎もできて二階建三棟に、百二十人くらいの主に地方出身の舎生がいた。多い時は二百名くらいの舎生がいた頃もあった。

漁村は明治二十三年から大正三年まで、足かけ十四年間を、五代校長森岩太郎(文久元年生、岡山)以下、多田綱宏(安政二年生、盛岡)、長沢市蔵(文久二年生、東京)、中馬庚(明治二年生、鹿児島、野球の名命者として殿堂入り)、渡辺文敏(明治五年生、山形)、小平高明(明治九年生、長野)まで六人の校長に任せ、漢文を教えた名物先生であった。

わが新潟中学校には他にも名物先生がたくさんおられ、列伝すれば何冊もの書物ができるところであろうが、漁村が赴任して来た頃のことを、軌の一年後輩の諏訪間快亮(十一回、田上村)が、「在校当時の思出」(創立五十年記念誌)という次の文でよくとらえている。「私共の入学当時の校長さんは肩の直角に張つた湯原元一(四代、元治元年生、佐賀)先生で、教頭が森岩太郎先生であった。次席は「卵さん」と愛称された歴史の佐竹元二先生で、卵に目鼻といふやうな方であったが、時には瘡高い声で叱つたりされた。理化は鳥居工学士先生で、「その装置は二本の棒にして」などと名講義をされた。三堀先生といふ笑つて居られるが、その後が大低雷が落ちるといふので恐れられた数学の先生が居られた。気取つた深澤先生、孔子様の様に勿体ぶつた講義をさるる伊澤先生、洋行帰りの角面広額の紳士及川先生のアメリカ物語も思い出の一つである。東条さんの様な顔をして、にらみのきいた平野先生、ハイカラでやさしい声で、ネーさん少尉と云はれた木村教官、「そんなことではあかんぜ」の内田トラ先生、「わしがわしが」と云ふ内山先生、「ぎつち二ぎつち二」と名号令の三井弥三郎先生などが特に我々の印象に深かつた。三年生頃になると羽織袴に長靴といふ渡辺先生が佐渡から来られ漢文を教へながらも英語達者で時々フランクリンなどを引用されて「空囊は直立し難し」などと原語で云はれて大いに驚かされたのであった。その尊称はあまりにも有名であるから省略する」と、ジントツア漁村先生と他の先生方の風姿を伝えている。(つづく)

